

過去にも、無しゃ断の踏切を列車が通過！

安全を担保するためのしゃ断竿が降りない事象は 機器の不具合ではすまされない

「申3号、紀勢線、阿野田踏切故障に関する申し入れ」

6月30日、8時25分頃、紀勢線亀山～下庄間阿野田踏切において列車が接近しているにも関わらずしゃ断桿が降下せず列車が踏切内に1メートル進入して停車するという事象が発生しました。幸いにも死傷者は出ませんでした。一歩間違えれば重大な事故に繋がる事象です。JR東海労名古屋地本は直ちに申3号で会社に申し入れを行いました。

過去にも同様な事象が発生

会社は、原因について「踏切に接近した列車に反応して、しゃ断桿を動作させる制御回路が、一時的に機能しなかったためと考えられるが原因について調査中」としています。

かつて紀勢線では2004年にも無しゃ断の踏切を列車が通過する事象が起きています。踏切のしゃ断竿が降りない事象は、安全上あってはならないことです。フェールセーフの原則《装置はいつか必ず壊れることを前提とし、故障時や異常発生時でも、安全側に動作させることで絶対に人命を危険から守る設計手法》からいっても言語同断です。

フェールセーフは、鉄道の保安にかかわるすべての機器に共通する最も基本的な思想であり、鉄道の安全と信頼はこの考え方のうえに成り立っています。

真の原因を早急に明らかに

私たちJR東海労は、今回の事象の原因究明、及び再発防止、そして発見した運転士に表彰することなど、会社に直ちに業務委員会等、開催を要求しました。

安全を脅かす事象に対し中途半端な対応は許されない JR東海は、徹底的な原因究明と、再発防止を早急に！！